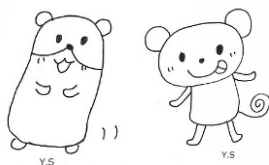

図書館サポーターズ募集中！



図書館報

第226(19-5)号(2019.10)

横浜女子短期大学図書館

TEL 045-835-8115/FAX 045-835-8118

E-mail lib@yokotan.ac.jp

第1回 絵本・ブックトーク

7月9日(火)、第1回絵本・ブックトークを開催しました。参加者4名(2年)から、実習で読み聞かせた絵本のおすすめのポイントについて、経験したエピソードを交えて紹介されました。9月に初めての実習を迎えた1年生にとっても参考になったことと思います。



参加者、司会者、見学者のみなさん、
ありがとうございました！



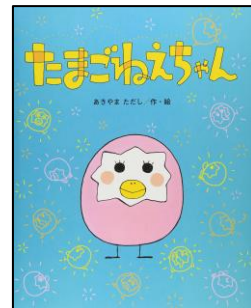
『たまごねえちゃん』 あきやまただし作・絵

I. M.

私が今回紹介する絵本は『たまごねえちゃん』です。去年の夏にアルバイトをしていた保育園で、年少組の子どもたちが大好きだった絵本です。何でもお父さんにやってもらっているたまごねえちゃんが、お父さんがケガをしたことからかわっていく様子が描かれています。

私がこの絵本を選んだ理由は2つあります。1つ目は、たまごねえちゃんは子どもの姿と似ているところがあり、子どもたちが共感し、自分も自分のことはできるようになろう、保護者に全て頼るのではなく、自分でまずはやってみようと感じることができるからです。実際にこの絵本の読み聞かせを行った後は、午睡の服装に替えることを一人でやろうとした子どもたちが多く見られました。

2つ目は、この絵本がシリーズものであるからです。「たまごねえちゃん」シリーズや「たまごにいちゃん」シリーズ、その中でもにわとりやからす、ペンギンなど、たくさんの種類があります。読み聞かせの絵本を選ぶのに困った際、たくさんのシリーズがあると、子どもたちもなじみやすく楽しく聞くことができます。(鈴木出版 2005)

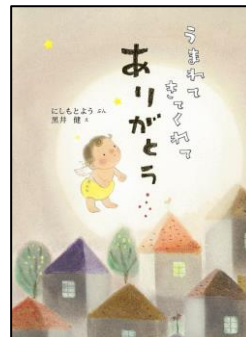


『うまれてきてくれてありがとう』 にしもとよう文・黒井健絵

K. M.

この本は、赤ちゃんが自分の居場所を探す物語です。赤ちゃんはおかあさんに言われた言葉があります。何という言葉だと思いますか？ ぜひ読んでみてください。

実習先ではお誕生日会の時に読まれていたので、就職園でも読んでみたいです。赤ちゃんの絵がとてもかわいいのも好きなどころです。(童心社 2011)



『まいごのたまご』 アレックス・ラティマー作

T. N.

この本は私が実習へ行く際に図書館から借りて、実際に子ども達へ読み聞かせを行いました。子ども達は「次はどんな恐竜が出てくるのか」「このたまごはどの恐竜の卵なのか」を楽しみに見っていました。子ども達に読み聞かせを終えた後に「どうだった?」と聞くと「おもしろかった」「また読んで欲しい」「食べられなくてよかった」などの声を聞くことができました。

この本を読んで、私は子ども達がどのような視点で絵本を見てどのように感じているのかを知りました。ぜひみなさんも実習で読んでみてはいかがでしょうか?

(KADOKAWA 2018)



『はらぺこあおむし』 エリック=カールさく

K. A.

物語としては、卵→幼虫→さなぎ→蝶という変態を経て美しい蝶が誕生するまでを描いていますが、単なる知識の絵本ではありません。

息もつかせぬ充実した画面が続き、生命の美しさをうたいあげています。一度手にすると忘れられない魅力をもつ絵本です!

(偕成社 1994)





絵本・ブックトークを開催します



参加者募集中！

今回は、秋・冬、またはクリスマスにおすすめの絵本をテーマに開催します。皆さんの参加をお待ちしています。

日時	2019年11月13日(水) 12:40~13:00
場所	図書館2階 絵本コーナー
紹介する本	クリスマスにおすすめの絵本
時間	一人1分程度(約300字です)
申込み	11月11日(月)までにカウンターへ

当日は、どんな絵本が紹介されるか楽しみです！



卒業生から皆さんへ
メッセージが届きました

私の母校



2014年卒業 M.K.

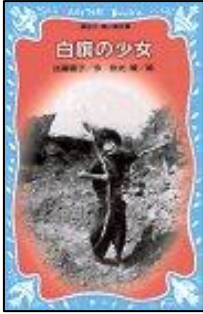
私が入学したのは30歳の時でした。子どもについて勉強を始めたのは皆さんより遅いスタートでした。はじめは正直2年間一人で勉強(実習、実技を除き)をしていくのだろうと思いましたが、同級生と一緒に勉強をしたり、話をしたり楽しく過ごすことができ、年齢なんて気にすることではないと思うことができました。卒業してすぐに仕事と両立の覚悟を持って、東京都内にある女子大学の通信教育を受けることになりました。通信教育で学ぶ生徒さんは様々な年齢の方がいます。短大での経験や今も続いている通信教育で様々な方にお会いして、勉強はずっと続くものであり、歳を重ねいくつになっても勉強はできることであり、歳を重ねるほど勉強が楽しくなることを知りました。



通信教育の勉強を進めるため、仕事後に短大の図書館によく通いました。再会する先生方や図書館の方々がいつも「がんばってください」と声をかけてくださり、とても嬉しくがんばれる気持ちを持ち続けることができました。いくつになっても自分を支えてくださる方々がいることは、挫けそうになっても「よしっ、がんばるか」という気持ちになること、その気持ちが自信につながることを学びました。みなさんも、ぜひ自分を支えてくださる方を大切にしてください。

私のオススメの1冊

『白旗の少女』 比嘉富子



1年 K.R.

舞台は太平洋戦争末期の沖縄です。7歳の少女は、逃亡中兄弟たちとはぐれてしまい一人で戦場をさまよっていたところ、身体の不自由な老夫婦に救われます。少女は一人白旗を持ってアメリカ軍に投降し一命をとりとめるのですが、その白旗とは、おじいさんのふんどしと木の棒で老夫婦が協力して作ってくれたものだったのです。これを持っていけば敵は攻撃してこないからと。お陰で少女は助かりますが、老夫婦は防空壕で亡くなってしまいます。（講談社青い鳥文庫）

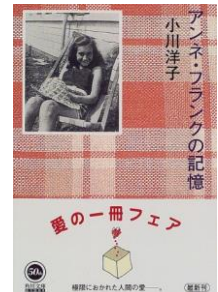
◆10月◆館員おすすめの1冊

『アンネ・フランクの記憶』（小川洋子）

原 真由美

小川洋子は中学生の時に『アンネの日記』と出会い、言葉が「自由自在に人の内面を表現」できることに驚いたそうです。「ひとつの純粋な文学」として読みながら、アンネを親友のように引き寄せ、やがて書くことに喜びを見出し作家になりました。自らの原点となったアンネ・フランク生誕の地へ赴き、隠れ家生活を支援した人たちを訪ねて未来を奪われた人々の思いを受け止めます。小説に登場する全ての生命に対して作者の謙虚な姿勢に尊敬が感じられるのは多感な時期に出会った『アンネの日記』によるものです。丁寧な言葉を紡ぎ出して積み上げ、作品に仕上げるのが心から好きなのだということがわかります。

（角川書店）



『星の子』（今村夏子）

大久保美玲

ちーちゃんは、素直で食いしん坊でめんくいなとてもよい子。両親は、ちーちゃんが小さい頃病弱だったために、新興宗教の信者となりちーちゃんを救います。成長して周りの環境がどんどん変わっていく中でも、ちーちゃんは変わらず両親や信者の仲間達が大好き。それが不思議な感覚になって読者にじわじわとせまります。



作家の小川洋子さんは今村夏子のことを「狂気を突き抜けた先にある哀れさのようなものを描ける人」と賞しています（神奈川新聞2019年8月1日朝刊）。『星の子』もまさに、狂気の先にある幸せ、そこから醸し出されるそこはかかない哀れさが溢れています。今村夏子作品の入門書としておすすめです。（朝日新聞出版）

読書会に来てください

話題にする本

第7回 11月20日(水)

幸田露伴『五重塔』岩波文庫 1992

第8回 12月18日(水)

カミュ『異邦人』新潮文庫 1994

第9回 2019年1月23日(水)

三上延『江ノ島西浦写真館』光文社文庫 2018



時間はそれぞれ、①12:40～12:55、②16:20～16:35、同一プログラムを2回行いますので、都合のつく時間帯に参加してください。いずれも図書館2F閲覧室で行います。

*当日は、話題にする本のほか「新潮文庫の100冊」も同時に開催します。100冊のなかから好きな本を1冊選んで読んで、おもしろかったところ、気に入った文章などを参加者のみなさんで紹介し合ひましょう。

2019年10-12月展示・館員おすすめの本



「音楽が聴こえる」



音楽をテーマにした小説や、全編に音楽が静かに流れる物語を紹介します。文章から音色を想像することは、耳で音を感じる以上に心が震えることがあります。読書をしながらかメロディがあふれてくるなんてとても贅沢な時間です。元気をもらったり癒やされたり、CDを流して静かな時間を過ごしてください。(原真由美)



森絵都『アーモンド入りチョコレートのワルツ』角川文庫 2005

絹子先生のピアノ教室は、歌っても踊っても構わない。自由で愉快で魅力的。ワルツの調べに誘われた君絵、奈緒、フランス人のおじさんの物語。「サティの音楽はきれいだよ」先生にとって最愛の人であるサティは、子どものための楽しい曲をたくさん作った人。三拍子は楽しかったこと、大好きだった人たちを覚えていなさいと軽やかに歌います。

大島真須美『ピエタ』ポプラ社 2011

ヴィヴァルディは、かつてヴェネツィアに存在した孤児を養育するピエタ慈善院で音楽の才能に秀でた〈合奏・合唱の娘たち〉を指導していました。ある日、教え子のエミーリアのもとに、恩師の訃報が届き……。失われた一枚の楽譜の行方を巡り女性達の嫉妬や友情が描かれます。「よりよく生きよ、むすめたち」と祈りが込められた曲が中庭で演奏されると、空から光が降ってくるようです。



松家仁之『火山のふもとで』新潮社 2012

フランク・ロイド・ライトの弟子だった建築家、村井俊輔に憧れて青山の設計事務所に入ったばかり。「国立現代図書館」の設計コンペを控えて、浅間山にある「夏の家」で事務所の仲間達と共同生活を始めます。コンペに向けた闘い、密やかな恋が静かに深く展開されます。背景にバッハのプレリュード、マーラーの交響曲、そして麻里子の弾くシューベルトのピアノソナタが低く流れます。



〈色々な音色を楽しんで〉

佐藤多佳子『第二音楽室』文藝春秋 2010 ♪学校×音楽室

宮下奈都『羊と鋼の森』文藝春秋 2015 ♪ピアノ×調律師

五十嵐佳子『あの日のオルガン』朝日文庫 2019 ♪戦争×保育士

DVD「戦場のピアニスト」東芝 2002

〈賑やかに！ 吹奏楽〉

津原泰水『ブラバン』バジリコ 2006

中沢けい『楽隊のうさぎ』新潮文庫 2007

瀬川深『チューバはうたう』筑摩書房 2008

DVD「スウィングガールズ」東宝 2006



図書館サポーターズ募集中

図書館主催の催しへの参加や、展示、図書館報の作成など図書館活動を支えてくれる**図書館サポーターズ**を募集しています。図書館や本が好きの方は、どうぞお気軽に声を掛けてください。

図書館の仕事に興味のある方もお待ちしております。



ガンバリ、ヨコタン生！

みなさんの就職活動を応援します

2年生はいよいよ就職試験の季節となりました。保育者を目指すみなさんのために、2F ブラウジングコーナーに就職に役立つ本を揃えました。ご利用ください。



図書館カレンダー

10							11						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5	27	28	29	30	31	1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
27	28	29	30	31	1	2	24	25	26	27	28	29	30

— : 休館日

平日（月～金） 9:00～18:20

10.2（水）～4（金） 9:00～16:45（秋季特別研修会）

10.14（祝・月） 9:00～15:00（授業）

*休講等で変更がある場合は、その都度掲示でお知らせします。

後記

卒業生の松野郁さんは、学生時代からよく図書館を利用していました。放課後や空き時間にコツコツと課題をこなす姿勢が、卒業後も勉強し続けることに繋がっているのだと思いました。後期は行事や就職試験などで忙しくなりますが、一日のわずかな時間でも本を開くゆとりを持ってたらいいですね。息抜きしたい時、いつでもどうぞ。

（原）

